

目的 高齢者の快適な生活環境づくりに関する研究の一環として、本研究は家事空間に着目し、高齢者にとって働きやすい家事空間を提案する為の基礎的資料を得る目的で、拘束の少ないより日常に近い状態で一連の家事作業を行い、高齢者の家事作業における動作及び生理特性について、青年群との比較検討を行った。

方法 被験者は、60歳から70歳後半の健康な老年女性6名及び、比較対象群として20歳代の青年女性6名を採用した。実験場所は、本学内ホームマネージメントハウス内。作業内容は、掃除作業として、掃除機を使った作業（タタミ及びジュウタン敷；約12㎡）、モップによる空拭き（板敷）、雑巾がけ（板敷）。炊事作業として料理（御飯、味噌汁、肉じゃが、漬物、お茶）及び後片づけ。アイロン作業（ブラウス1枚、ハンカチ2枚）であり、その順序・方法については、全く自由とし、休憩は各自任意とした。測定項目は、ビデオ撮影・タイムスタディ・心拍数・アンケート調査であった。

結果 作業別所要時間は、各作業で老人群の方が短いですが、逆に、非活動的な休憩・食事時間は長くなった。特に、炊事作業の時間は短く、作業に対する慣れがうかがえた。しかし、炊飯を忘れるなどの料理手順の不手際や器具取り扱いの不慣れによる老人特有の行動が認められた。作業姿勢は、体型のくずれにより、前傾姿勢が大半を占めていた。心拍数については、各作業とも老人群の方が増加率は大きく、特に、掃除機を使った作業・雑巾がけで著しい増加が認められ、老年女性における心拍増加率の許容最大限（約70%）を越える結果となった。心拍数と所要時間の関係では、老人群の方が相関が高く、心拍数が高い作業は短時間で終了し、逆に、心拍数の低い作業は長時間継続するという傾向が認められた。